



念願の中学校給食実施は確定 広陵町 PTA 協議会が山村町長に対して 自校調理方式を求める要望を提出！

去る9月18日、広陵町 PTA 協議会が吉川町長名で山村町長に対し、各校 PTA 役員アンケートの結果(87 対 1 で圧倒的多数が自校調理方式を希望)に基づいて、中学校給食は自校調理方式で行うように申し入れていることがわかりました。いい給食を実現して欲しいとの保護者の強い願いを示したもので重要です。日本共産党議員団は、全住民のみなさんにこのことをお知らせするとともにこの保護者の願いを実現するために全力を尽くします(要望全文、アンケート集約結果は裏面に掲載しています)

中学校給食運営委員会は何故センター方式を選択したのか？

⇒ 合理的理由は何も示されていません

答申では運営委員会がセンター方式を選択した合理的な理由は何も示されていません。センター方式の狙いは大量調理による効率化とコスト削減にあります。運営委員会の答申は初期投資も長期的な運営コストも自校調理方式の方が安く、センター方式の方が高いとなっております。センター方式を選択する合理的理由は何もありません。「本運営委員会の総意としてどちらかを選定するに至らず、出席委員による投票の結果7対6でセンター方式を選定した」と言うだけです。しかも止むを得ない事情で欠席した二人の委員は自校方式支持ということです。

実施方式を選択する投票では、投票に際して PTA 役員や学校長・保護者と相談し意見を聞いた委員は自校調理方式賛成が多く、何も相談しなかった委員はセンター方式賛成が多いのも特徴的です。(自校調理方式とセンター方式の賛否の集約結果は別表のとおり)

何故、センター方式でなく自校調理方式の採用が大事なのか

⇒ 給食は単なる食事の提供ではなく教育の重要な一環。食育に適した方式が重要

学校給食は、単に食事を提供するだけでなく、教育の重要な一環であり、体と心を育て、食に関する正しい理解と判断力を養うものです(学校給食法)。このような給食は食事を作る調理員さんと食べる子供たちの密接なコミュニケーションがなければ成り立ちません。

保護者の願いも、調理してすぐに、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べられること、アレルギーなどへの個別の対応がやりやすいこと、また食べることを通じて地域に関心を持ち、生産者に感謝する心を育てるようなきめ細かな対応が出来る給食を望んでいます。

これを保障出来る給食はセンター方式ではなく自校調理方式です。

『経費面からみても自校調理方式の方が有利』(中学校給食運営委員会答申)

中学校給食運営委員会の答申書では、教育委員会事務局が提出した同じ資料を用い、中学校2校を自校調理方式とした場合(A)、中学校2校をセンター方式とした場合(B)、小学校も中学校もすべてセンター方式とした場合(C)の比較が報告されました。10年間で見るとA:17億円、B:18億円、C:30億円となり、20年間でもA:30億円、B:32億円、C:50億円となっています。センター方式の場合、センターの建設・運営費用だけで

なく受け入れる中学校側の施設改修費や水道光熱費、配送費がかかるためコストがかさむとの説明がありました。運営委員会は何故コストの高い方式を選択したのでしょうか？

食育を担う栄養教員を各学校に配置することが重要 文部科学省 HP

文部科学省のHPに「食育・栄養教諭に関してよくある質問 Q&A」があり、学校における食育の推進体制の構築を次のように呼びかけています。『学校における食育を適切に進めるためには、(中略)栄養教諭は教諭として学校に配置されるべき職であり、学校に配置されてこそ、その専門性を生かすことのできる職であることを十分にふまえて配置を促進する必要があります。』昼食時になって、調理室からのおいしいにおいが子どもたちの食感を刺激して食べることの大切さや関心を広げることは既によく知られています。自校方式の調理と栄養教員の配置が力になることは言うまでもありません。

自校調理方式とセンター方式の賛否の集約結果一覧表

	自校調理方式賛成		センター方式賛成	その他
	採決時出席	採決時欠席		
運営委員会	6人	2人	7人	
町議会議員	5人	1人(注1)	7人	1人(注2)
計	14人		14人	1人
請願署名	3,367人		なし	77人(注3)
各校のPTA役員	87人		1人	

(注1)議会特別委員会委員ではない町議会議員 (注2)“親子方式”賛成

(注3)この請願では運営方式が特定されず「今後十分に協議する」としていた。

山村町長は勇気を持って公約を守り、食育重視、 保護者の希望に応える自校調理方式採用の決断を！



こんにちは日本共産党です **広陵民報**

2014(平成26年)11月-032

発行：日本共産党広陵支部

町会議員：八尾 春雄 0745-60-0972 snkb30217@hera.eonet.ne.jp

町会議員：山田みつよ 0745-55-7003 my22@ken.jp

日本共産党広陵町議員団 HP http://koryo-jcp.jp/

・自校調理方式を求めるあなたの意見を町長
・教育長・議会議員に伝えましょう！

平成26年 9月吉日

広陵町長 山村 吉由様

広陵町PTA連絡協議会
会長 吉川 宗広

秋冷の候、貴殿におかれましては益々ご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。平素は本町の教育並びPTA活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

二期が始まり、会長会といたしましても、子ども達を健全に育成するために、日々活動に励んでおります。

中学校給食運営委員会の答申が出され、前任のPTA会長（中学校給食運営委員会 委員長様）よりご報告をいただきました。私たち広陵町PTA連絡協議会といたしましても、園、学校の代表として何か出来ることはないかと考え、中学校給食アンケートの実施を行いました。

アンケート調査の実施内容

- ◎対象者 各幼稚園 小学校 中学校 PTA本部役員
- ①自校方式又は、センター方式の調査
- ②なぜその方式がいいのか？いろいろなご意見を聞かせてください。

中学校給食アンケート調査の実施にあたって、PTA本部役員の皆様には、中学校給食について、子ども達にとって何が大切なのか、子ども達のためにどうしてあげるのがいいのか、給食を食べるのは子どもです。子どものための給食だということを最優先での判断、意見をお願いしています。

この調査は、PTA本部役員のみで行っております。各校本部役員の皆様で、自校方式とセンター方式について、またメリット、デメリットなど、インターネットなどで調べていただいています。またアンケートと別に「早く実施していただい」という声を、各学校から多く報告いただいています。平成28年4月の実施に期待をされている保護者が多数おられます。PTA本部役員一同、真剣に話し合い考えた意見です。学校全体の調査ではないことを御了承いただいた上で、保護者の意見として、参考にしていただけたら幸いです。

今後とも、本町の教育並びPTA活動にご支援賜りますようお願い申し上げます。



中学校給食アンケート 結果

園・学校名	役員数(会長含む)	自校方式	センター方式
広陵西幼稚園	4名	4名	0名
広陵西第二幼稚園	5名	5名	0名
広陵東幼稚園	4名	4名	0名
広陵北幼稚園	7名	7名	0名
真美ヶ丘第一幼稚園	5名	5名	0名
真美ヶ丘第二幼稚園	5名	5名	0名
広陵東小学校	6名	6名	0名
広陵西小学校	14名	14名	0名
広陵北小学校	9名	9名	0名
真美ヶ丘第一小学校	7名	7名	0名
真美ヶ丘第二小学校	8名	8名	0名
広陵中学校	9名	8名	1名
真美ヶ丘中学校	5名	5名	0名
合計	88名	87名	1名

☆自校方式がいいと言われた方の意見

- ・温かいものは温かく、冷たいものは冷たい状態で美味しいものを食べさせてあげたい。
- ・出来立てを美味しいうちに食べられることにより、食欲促進になるのでは。
- ・温かい給食を安全に子ども達に食べさせることができるのでは。
- ・センター式で食中毒が出た場合、全ての学校に危険があるが、自校式だとその学校だけで防げるのでは？
- ・小学校時代に、センターも自校も経験しているが、センターから運ばれてくる容器の匂いが食べ物にうつって、トラウマだった。自校は美味しかった。
- ・自校であれば調理員さんの顔が見えるため、給食を身近に感じられる。感謝の気持ちも毎日伝えることができる。食育になると考える。
- ・小学校では、アレルギーなどにもきめ細かく個別対応していただいている。(調理室に各学年クラス別に、アレルギーの子どもの人数など、細かく標記された表が貼られていた。)
- ・調理室から給食の匂いがしてくることによって、食欲がアップするのでは。
- ・学校行事や、土曜参観など各校で時間や日程など調整してもらえないか。

☆センター方式がいいと言われた方の意見

- ・味の偏りがなくなる。

この資料は、情報公開制度を活用して得た住民の方から、日本共産党議員団に提供されたものです。重要な資料ですので全住民のみなさんにお知らせします。

〒635-8515 奈良県北葛城郡広陵町大字南郷 583 番地 1 広陵町役場 広陵町長 山村吉由様 広陵町教育長 松井宏之様 広陵町議会議員 青木義勝様

要 請 先

電話: 0745-55-1001 ファックス: 0745-55-1009 E-mail: info@town.koryo.nara.jp